

種生物学会ニュースレター

The Society for the Study of Species Biology Newsletter No. 51



選挙実施のお知らせ	1	第 49 回 種生物学シンポジウム（福井）の記録	6
Plant Species Biology 誌の今後と年会費の変更について	1	お知らせ	7
第 50 回 種生物学シンポジウム（東京）のご案内	2	会計報告	8

選挙実施のお知らせ

会則第 21 条、24 条、31 条、ならびに「選挙に関する規則」に従って、次期会長・副会長・地区幹事選挙（任期：2019 年 1 月 1 日～2021 年 12 月 31 日）が選挙管理委員会によって行われます。別紙をご参照いただき、投票用紙を同封の返信用封筒で選挙管理委員会へお送りください。投票締め切りは【11 月 8 日（木）必着】です。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

Plant Species Biology 誌の今後と年会費の変更について

会長 大原 雅

昨年の総会でもご説明させていただきましたが、この度、種生物学会は英文誌（Plant Species Biology : PSB）の出版に関して、日本生態学会から出版されている Ecological Research 誌（ER）、個体群生態学会から出版されている Population Ecology 誌（PE）とともに、3 誌一括で Wiley 社と契約を結び、2019 年より合同出版することになりました。出版経費は日本生態学会から申請、採択された科研費（国際情報発信強化）により支出され、3 誌は日本生態学会から出版されます。しかし、各誌の編集体制は各学会が独立した編集組織を持って行い、雑誌の形態はほとんど変わりません。従って、ER はアジアの生態学総合誌、PE は個体群生態学のトップジャーナル、PSB は植物の種生物学に関する国際誌、という各誌のアイデンティティは変わりません。

このように、3 誌の出版契約を日本生態学会に一本化し、合同で出版することにより、出版管理や広報の集約ができるほか、出版事業に関して出版社に対して包括的な交渉が可能になります。そして、何より種生物学会にとっては、本契約により、PSB 出版に対する経費を種生物学会自体が支出しなくてもよくなるのが非常に大きな要素となります。この出版経費の軽減は、種生物学会のみならず、日本生態学会、個体群生態学会にとっても大きな命題であったことから、3 学会ともに合同出版は前向きに考えられるものでした。今年の PSB のインパクトファクターもこれまでの最高値となる 1.673 と上昇し、植物の種生物学研究に

おける本誌の重要性も評価されることから、3 誌合同出版という新たなスタイルで、一層の発展が期待されるところであります。

ここまでご説明してまいりましたように、3 誌一括出版契約、合同出版体制への移行により、PSB の出版に関わる経費を種生物学会独自で支出する必要がなくなりました。これを受け、来年度から会費を変更させていただくことにいたしました。本件に関しましては、会計担当幹事に大変ご苦勞いただき、今後の会員数の変動も視野に入れながら、予算の試算を作っていただきました。その後、執行部、幹事会での議を経て、2019 年からの会費を一般会員 6,000 円（現：12,000 円）、学生会員 3,000 円（現：6,000 円）とさせていただきます。会費の値下げとなりますが、種生物学会がこれまで弛まず培ってきた「種生物学シンポジウム」をより充実させるため、シンポジウム開催補助金の増額を組み込んだ会費の変更であることも申し添えさせていただきます。

2019 年は、英文誌 Plant Species Biology の出版体制、そして種生物学会の会費に関して新しいスタートの年になります。現在、首都大学でご準備いただいております、12 月の種生物学シンポジウム（八王子）が、記念すべき第 50 回という節目であることも、偶然ではない気がいたします。現会員におかれましては、これまでと同様に種生物学シンポジウムをアットホームかつホットな研究交流の場としていただき、是非、研究成果を PSB にご投稿いた

だければと思います。また、次世代を担う、若い研究者の方々は、是非、種生物学シンポジウムに参加いただき、本学会の魅力を肌で感じ、新たにご入会いただくことを願っ

ております。

引き続き、種生物学会を宜しくお願い申し上げます。

第 50 回 種生物学シンポジウム (東京) のご案内

<https://sites.google.com/view/sssb2018symposiumtokyo/>

50 回目となる種生物学シンポジウムは、2018 年 12 月 7 日 (金) ～9 日 (日) に東京都八王子市の大学セミナーハウスにて開催されます。シンポジウムのメインテーマは、直球勝負の「種分化」です。植物に加えて、昆虫や魚を材料にしたホットな話題を用意しました。また、実行委員会企画のミニシンポジウムでは、種生物学研究の強力な道具となっている「次世代シーケンサーの利用」がテーマです。プレシンポジウムでは、これまでの種生物学シンポジウムを振り返りながら一回繁殖型草本の生活史戦略について可知元会長が話題提供します。

八王子での開催は、2009 年以来 9 年ぶりです。シンポジウムやポスター会場は昔のままですが、宿泊施設は新築され快適になりました。また、お子さんやご家族同伴の参加も歓迎します (託児室は会場に隣接しています)。

● 全体のスケジュール

12 月 7 日 (金)

- 13:00-18:00 各種委員会
- 16:00-18:00 受付開始・ポスター貼付
- 18:00-19:00 夕食
- 19:00-20:00 **プレシンポジウム「再訪：一回繁殖型草本の生活史戦略 ～これまでの種生物学シンポジウムを振り返りつつ～」** 企画者：可知直毅 (首都大学東京／元会長)
- 20:00- 交流会

12 月 8 日 (土)

- 08:30-10:00 ポスター発表 (奇数コアタイム)
- 10:00-11:30 ポスター発表 (偶数コアタイム)
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-15:40 **実行委員会企画ミニシンポジウム「種生物学における次世代シーケンサーの利用」** 企画者：陶山佳久 (東北大学)・伊藤元己 (東京大学)
- 15:50-17:00 片岡奨励賞受賞講演会 (予定)
- 17:00-18:00 種生物学会 2018 年度総会
- 18:00-20:00 懇親会 (片岡奨励賞・PSB 論文賞・ポスター受賞者授賞式)
- 20:00- 交流会

12 月 9 日 (日)

- 08:30-11:50 **和文誌編集委員会企画シンポジウム「種が生まれるとき ―種分化における適応と隔離の意義を探る―」** 企画者：阪口翔太 (京都大学)・川北 篤 (東京大学)
- 11:50-12:50 昼食
- 12:50-15:40 **和文誌編集委員会企画シンポジウム (つづき)**
- 15:45 解散

締切日

参加申し込み・振り込み	【早割】10月5日(金)
	【最終締切】11月20日(火)
宿泊と食事の申し込み・振り込み	10月5日(金)
ポスター発表申し込み・要旨登録	11月5日(月)
託児室利用申し込み	11月12日(月)

● プレシンポジウム「再訪：一回繁殖型草本の生活史戦略 ～これまでの種生物学シンポジウムを振り返りつつ～」

12月7日（金）企画者：可知直毅（首都大学東京／元会長）

個体の適応度は、その個体が将来残す子孫の数です。この子孫の数の期待値は、生存と繁殖のスケジュール、すなわち「生活史」により決まります。このプレシンポジウムでは、これまでの種生物学シンポジウムを振り返りつつ、一生に一度しか繁殖しない生活史をもつ草本植物を題材にして、植物の生活史の進化の研究に個体群生態学が果たした役割について概観し、これからの研究について展望します。

● 実行委員会企画ミニシンポジウム「種生物学における次世代シーケンサーの利用」

12月8日（土）企画者：陶山佳久（東北大学）・伊藤元己（東京大学）

次世代シーケンサー（NGS）解析技術の発展は、種生物学研究にも大きな恩恵をもたらしています。本ミニシンポでは、NGSを利用したゲノムワイド SNP 分析、DNA バーコーディング、トランスクリプトーム解析、エピゲノム解析、全ゲノム解析などによる、個体・集団・種間の遺伝的關係、環境応答、種分化過程や集団動態の推定など、種生物学に関わりの深い最新の解析技術とその成果について、わかりやすく概観して議論します。この分野の初心者からベテランまでが、広く新たな研究展開のヒントを得られる場となることを期待しています。

13:00-13:10 趣旨説明

13:10-13:50 「MIG-seq とマルチプレックス DNA バーコーディングによる分子系統・集団遺伝解析」

陶山佳久（東北大学）

14:00-14:40 「フィールド・トランスクリプトミクス/エピゲノミクス：分子フェノロジーにみる植物の長期環境応答」

工藤 洋（京都大学）

14:40-15:20 「一種で多様な生態ニッチを優占するハワイフトモモの全ゲノム解析」

伊津野彩子（森林総研究所）

15:20-15:40 総合討論

● 和文誌編集委員会ミニシンポジウム「種が生まれるとき 一種分化における適応と隔離の意義を探る」

12月9日（日）企画者：阪口翔太（京都大学）・川北 篤（東京大学）

生物進化の長い歴史の中では「種分化」は、一瞬にして新しい種が生まれ出るような現象かもしれません。しかし、それは多様性創出の鍵となる過程であり、種と集団のはざままで生物がダイナミックに変化する場でもあります。今回のシンポジウムでは、この変化をもたらす要因として適応と隔離に焦点を当てて、種分化に果たす役割について議論します。

08:30-08:40 趣旨説明 阪口翔太（京都大学）・川北 篤（東京大学）

08:40-09:25 「アキノキリンソウ群における平行的な生態的多様化」

阪口翔太（京都大学）

09:25-10:10 「テントウムシの交雑を介した平行的な生態的種分化」

松林 圭（九州大学）

10:20-11:05 「トゲウオにおける種分化機構」

北野 潤（国立遺伝研究所）

11:05-11:50 「ガガンボカゲロウから紐解く集団の隔離と種分化へのプロセス」

竹中將起（信州大学）

12:50-13:35 「周期的一斉開花植物の生活史進化と生殖隔離」

柿嶋 聡（国立科学博物館）

13:35-14:20 「チガヤの2生態型間の雑種形成がもたらす劇的な開花期シフト」

野村康之（京都大学）

14:30-15:15 「キイチゴ属における種分化と二次接触のゲノム解析」

三村真紀子（玉川大学）

15:15-15:40 総合討論

● シンポジウム参加申し込み・振込み 【10 月 5 日 (金) まで早割、最終締め切り 11 月 20 日】

- シンポジウム参加申し込みは、第 50 回種生物学シンポジウム HP の「シンポジウム参加申し込みフォーム」にて受け付けます。シンポジウム参加に関わる費用をお振り込み後に、参加申し込みフォームの入力を行ってください。
- シンポジウム参加費 (早割の場合) は、学生 (会員 4,500 円、非会員 5,500 円)、一般 (会員 9,000 円、非会員 10,000 円) です。10 月 6 日～11 月 20 日までの振込みでは、各会員の早割の金額に 1,000 円が加算されます。
- 種生物シンポジウム参加にかかる費用は、全日程参加で 10 月 5 日までに振込みの場合、
 - a. **学生会員 21,500 円** (学生非会員はプラス 1,000 円)
(内訳: シンポジウム参加費 4,500 円、宿泊費 10,000 円、食費 4,000 円、懇親会費 3,000 円)
 - b. **一般会員 29,000 円** (一般非会員はプラス 1,000 円)
(内訳: シンポジウム参加費 9,000 円、宿泊費 10,000 円、食費 4,000 円、懇親会費 6,000 円)

です。宿泊費と食費等の詳細については下記をご覧ください。宿泊・食事等を伴う場合、申し込みと振り込みの期限は **10 月 5 日 (金)** となりますので、ご注意ください。

※ 上記の日程以外での参加の方は、「シンポジウム参加申し込みフォーム」より申請してください。

※ 現在は非会員の方でも、参加申し込み前に入会した場合、学会員と同じシンポジウム参加費を適用します。種生物学会への入会はオンライン (<http://www.speciesbiology.org/entry/form.php>) で行うことができます。

- シンポジウム参加にかかる費用は、シンポジウム参加申し込みを行う前に、次のゆうちょ振替口座にお振り込みください。本シンポジウム専用の振込み用紙は準備しておりません。振込用紙が必要な場合は、郵便局備え付けの振込用紙をご利用ください。

口座番号: 00130-3-514960

加入者名: 50 種生物シンポ

よみがな (ゴジュウシュセイブツシンポ)

※ 一旦振り込まれた参加費は返却できませんので、ご承知おきください。

※ 振込後に受け取る「郵便振込請求書兼受領証」を必ず保管してください。種生物学シンポジウム参加申し込みフォーム入力の際に、振込み情報が必要になります。

※ 11 月 21 日以降は、振込みを受け付けません。

● 宿泊費と食事等の申し込み・振込み 【10 月 5 日 (金) まで】

- 宿泊と食事等の申し込みは第 50 回種生物学シンポジウム HP の「シンポジウム参加申し込みフォーム」にて受け付けます。宿泊と食事等の費用のお振り込み後、参加申し込みフォームを入力してください。
- 宿泊費は 1 名 2 泊で 10,000 円 (1 泊 5,000 円)、食費は 4,000 円、懇親会費は学生 (3,000 円)、一般 (6,000 円) です。
- 宿泊部屋は、大学セミナーハウス「さくら館」の男女別の相部屋 (洋室、一室 4 名利用) になります。部屋の設備、アメニティについては、八王子セミナーハウス HP (<https://iush.jp/usage/>) をご覧ください。部屋割りは実行委員会でを行います。

● ポスター発表の募集 【発表申込み・要旨登録 11 月 5 日 (月) まで】

- ポスター発表を希望する方は、シンポジウム参加申し込みフォームで「ポスター発表をする」にチェックをしてください。ポスター発表内容の登録は、第 50 回種生物学シンポジウム HP の「ポスター発表登録フォーム」より行ってください。ポスター賞の応募 (学生会員のみ) は、ポスター発表登録フォームよりお申し込みください。発表要旨は 700 字以下で用意してください。
- ポスター発表の申込者 (発表者) は、2018 年度分の種生物学会会費納入済の会員に限ります。非会員の方は、事前に入会をお済ませください。
- ポスターは A0 縦サイズで作成してください。展示ボードは横 90 cm×縦 180 cm です。ポスター掲示のためのピンやテープは各自でご用意ください。

● 子連れ参加支援 【11月12日（月）まで】

会場内に保育士が常駐する託児室を開設し、利用料金の半額を学会が支援します。託児室の利用を希望される方は、第50回種生物学シンポジウムHPの「家族・託児室の申し込みフォーム」より利用日時、利用するお子様の名前、年齢などをご記入し、お申し込みください。実行委員会から確認のメールを差し上げます。

● 会場・アクセス

会場

大学セミナーハウス（〒192-0372 東京都八王子市下柚木 1987-1 TEL：042-676-8511）

<https://iush.jp/usage/>

シンポジウム会場・受付：講堂

ポスター会場：大学院セミナー室

宿舎：さくら館

各種委員会会場：さくら館（1階）

食堂：やまゆり

懇親会会場：本館 多目的スペース（4階）

託児室：図書館セミナー室（講堂に隣接しています）

アクセス

1. 公共交通機関を利用する場合

① 京王線 北野駅

北口タクシー・バス乗り場より京王バス（南大沢駅行・柚木折返場行）に約10分乗車、「野猿峠」下車徒歩5分

② 京王線 南大沢駅（首都大学東京の最寄り駅）

駅前広場より京王バス（北野駅行、八王子駅南口行）に約20分乗車、「野猿峠」下車徒歩5分

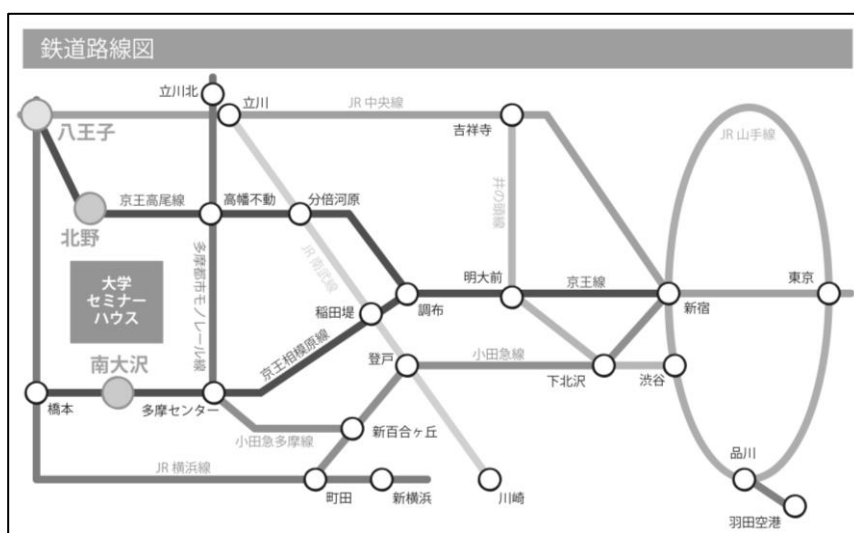
③ JR 八王子駅

南口タクシー・バス乗り場より京王バス（南大沢駅行、柚木折返場行）に約20分乗車、「野猿峠」下車徒歩5分

2. 車を利用する場合

大学セミナーハウスは、中央自動車道の八王子 I.C.より約8kmに位置しています。大学セミナーハウスHP（<https://iush.jp/access/car>）では、新宿、山梨、横浜の3方面からのアクセス方法が示されています。

※ 車は大学セミナーハウス専用の無料駐車場に駐車できます。なお、駐車場での事故や盗難について一切の責任を負いません。



● 第50回種生物学シンポジウム実行委員会

可知直毅（首都大学東京 理学研究科）

問合せ先：sssb.tokyo.2018 at gmail.com（at を@に置き換えてください）

電話 0426-77-2585（植物生態学研究室直通）

第50回種生物学シンポジウムHP：<https://sites.google.com/view/sssb2018symposiumtokyo/>

第 49 回 種生物学シンポジウム (福井) の記録

2017 年 12 月 1 日 (金) ~ 3 日 (日) すかつとランド九頭竜

プレシンポジウム

大石善隆 (福井県立大) シャガと見える: コケ生物学への誘い
平 修 (福井県立大) 見えないものが見える: 生態学におけるイメージングマス技術活用の可能性

片岡奨励賞受賞講演会

渡邊謙太 (沖縄工業高等専門学校) 島の植物にみる二型花柱性を中心とした性表現の多様化

ミニシンポジウム「人と係る野生植物、雑草」企画者: 吉岡俊人 (福井県立大)

大田正次 (福井県立大) 野生コムギ: 種子休眠性の自然環境への適応と栽培化にともなう変化

吉岡俊人 (福井県立大) 畦畔雑草アゼオトギリが絶滅危惧種になった理由から考える水田平野の水のこと

関岡裕明 (株 BOGA) 希少雑草の宝庫、中池見湿地の将来に向けて

企画シンポジウム「植物を感じる世界—巧みな情報伝達システムが可能にする植物の柔軟な応答—」企画者: 山尾僚 (弘前大)

塩尻かおり (龍谷大) 植物の匂いコミュニケーション

山尾僚 (弘前大)・向井裕美 (森林総研) 環境識別による植物の多様なふるまい

向井裕美 (森林総研)・石川勇人 (熊本大)・澤進一郎 (熊本大)・山尾僚 (弘前大) 種子の生物的環境に応じた可塑性な発芽

松林嘉克 (名古屋大) ペプチドホルモンを介した植物の巧みな生存戦略

遠藤求 (京都大) 植物の組織特異的な環境センシング

川窪伸光 (岐阜大) 他者を操る植物の諸行動

ポスター発表

(★ 種生物学会ポスター賞、◆ 河野昭一ポスター賞)

船本大智 (神戸大) イワシャジン近縁種群における花形質と花粉媒介者の分化

甘田岳¹・小野田雄介¹・小林慧人¹・伊津野彩子²・向井真那¹・北山兼弘¹ (¹京大・農,²森林総研) ハワイフトモモにおける葉トライコームの適応的意義—キジラミに対する被食防衛効果—

相田大輔・大原雅 (北大院・環境科学) エンレイソウ属植物の種分化 — 4 倍体雑種カワユエンレイソウは幻か? —

梅川健人 (北大院・環境科学)・若菜勇 (釧路市教委・マリモ研)・大原雅 (北大院・環境科学) 阿寒湖のマリモにおける 3 つの生育形と繁殖様式の変異—遊走細胞形成に着目して

白井詩織・川窪伸光 (岐阜大・応用生物) 帰化植物マツバウンランの生活史解析

服部正道・川窪伸光 (岐阜大・自然科学技術研) ヤブツバキの花粉媒介における鳥類の貢献度

菅原早紀・川窪伸光 (岐阜大学・応用生物) カメ類による種子散布の可能性を探索

加藤禎基 (信大院・理)・市野隆雄 (信大・理/信大・山岳) マルハナバチ 5 種における形態サイズの標高傾度に沿った変化

辻本翔平・石井博 (富山大・理工学) 花の見つけやすさが、マルハナバチの報酬量と位置との連合学習に与える影響

久保田銀河 (富山大・理工学) マルハナバチタマセンチュウによるマルハナバチ女王の移動分散抑制の証拠

樋口裕美子★・川北篤 (京大・生態研) ハクサンカメバヒキオコシの葉形を介した対オトシブミ産卵防衛の検討

後藤可南子¹・山尾僚²・川窪伸光¹ (¹岐阜大・自然科学技術研,²弘前大・農学生命) アカメガシワの成長と化学・物理・生物的防御性質の時空間的变化

三原龍太郎・篠原義典 (信大院・理工)・市野隆雄 (信大・理/山岳研) キツリフネにおける遺伝的・生態的に分化した 3 型の発見

田川一希¹・渡邊幹男²・矢原徹一¹ (¹九大・理,²愛知教育大・教育) さわると素早く閉じる花の発見—対植食者防御の新しい戦略?

内田葉子・大原雅 (北大院・環境科学) ゴマシジミの捕食に対するナガボノシロワレモコウの繁殖補償戦略

濱本健汰 (信州大院・理)・伊藤建夫 (信大院・総合工学)・北原曜 (信大・農)・市野隆雄 (信大・理/信大・山岳) 形態的に酷似したウラギンヒョウモン属 2 種における共存・交雑・遺伝分化

中浜直之 (東大・総合文化)・井鷲裕司 (京大・農) 絶滅危惧蝶類における遺伝的多様性・構造の時間的変化を標本 DNA から探る

佐藤佑哉・川窪伸光 (岐阜大院・応用生物) 高速度撮影を用いた身近なチョウ類の飛行解析

南木悠・寺井洋平・木下充代 (総研大) 花粉分析によるヒメウラナミジャノメの訪花植物の同定

大崎晴菜・山尾僚 (弘前大・農生) 植物の競争環境に応じた表現型可塑性に着目した植食性昆虫の共存機構の解明: エゾノギシギシとハムシ 2 種を用いた検証

田路翼 (信大院)・石本夏海・市野隆雄 (信大・生物) サラシナシヨウマの 3 送粉型における繁殖様式の分化—異なる送粉者環境に対する適応!?

村中智明 (京大・生態研)・工藤洋 (京大・生態研)・小山時隆 (京大・理・植物) 日本産短日性アオウキクサにおける花成限界日長と概日リズム周期の相関

勝原光希 (神戸大)・北村俊平 (石川県大)・石井博 (富山大)・中田兼介 (京都女子大)・丑丸敦史 (神戸大) コチャルメルソウの花序構造が送粉者の行動と繁殖成功に与える影響

塚原一颯◆・土田浩治・川窪伸光 (岐阜大・自然科学技術研) 花でアザミウマは何をしているだろう?

神原昭真¹・藤井伸二²・川窪伸光¹ (¹岐阜大・応用生物,²人環大・人間環境) キバナアキギリの花冠における赤斑の地理的変異

武田和也★・川北篤 (京大・生態研) 滑る花弁: 花弁表面ワックスは盗蜜者排除機構として機能するか?

野村康之★・下野嘉子・水野信之 (京大・農)・佐藤和広 (岡山大・植物研)・富永達 (京大・農) チガヤにおける種内 F1 雑種の劇的な開花期シフトによる生殖隔離メカニズム

渡部俊太郎 (京大・フィールド研)・池田成貴 (京大院・農)・伊勢武史 (京大・フィールド研/JST さきがけ) 日本列島における落葉広葉樹の展葉フェノロジーの緯度勾配—シミュレーションモデルとデータ同化による予測—

藤田琴実 (東北大・農)・満行知花 (九大・理)・綱本良啓 (東北大・農)・井鷲裕司 (京大・農)・Gildas Gâteblé (Institut

Agronomique Néo-Calédonie)・陶山佳久(東北大・農) ニューカレドニアで適応放散したシソ科 *Oxera* 属植物のゲノムワイド SNP 分析
 邑上夏菜・勝原光希・丑丸敦史(神戸大・人間発達環境) 雄性両性同株植物ケツユクサにおける雄花生産の季節変化とその要因
 湯本原樹・杉阪次郎・工藤洋(京都大・生態研) 簡易撮影による調査地俯瞰写真を用いた多年生草本ハクサンハタザオの個体群調査
 辻村雄紀・Than Myint Htun・沼口孝司・高間菜摘・杉山昇平・石井尊生・石川亮(神戸大院・農) 野生イネの繁殖に必須の種子脱粒性に関わる遺伝子座の同定
 井原希・小林浩幸(農研機構・中央農研) 個体群動態調査によるマルバアメリカアサガオの圃場への侵入経路の解明
 上山芝穂・坂田ゆず(秋田県立大・生物資源) ササ類の種子食性昆虫相の解明
 坂田ゆず・上山芝穂・蒔田明史(秋田県立大・生物資源) スズタケの種子散布前の種子被害率: 開花規模の異なる集団間の比較
 佐藤安弘(龍谷大・さががけ)・手塚あゆみ・鹿島誠(龍谷大・農)・出口亜由美(千葉大・園芸)・清水(稲継) 理恵・山崎美紗子・清水健太郎(チューリッヒ大 IEU)・永野惇(龍谷大・農) 野外栽培したシロイヌナズナの遺伝子発現からみた被害応答の恒常性と可塑性
 大野ゆかり(東北大・生命科学)・横山潤(山形大・理/山形大・創生研)・中静透(東北大・生命科学/地球研)・河田雅圭(東北大・生命科学) 市民が撮影した写真を用いたマルハナバチの分布拡大・縮小の推定
 工藤洋・Biva Aryal・本庄三恵(京大・生態研)・篠原渉(香川大・教育) ハクサンハタザオにおける葉面撥水性の遺伝的集団分化
 大嶋希美・早船琢磨・大原雅(北大院・環境科学) 一回繁殖型多年生草本オオウバユリの集団間の遺伝的多様性の違いと繁殖様式の関係
 満行知花(九大・理)・陶山佳久(東北大・農) MIG-seq 法によって明らかになった2倍体、倍数体由来タンポポの種間分化
 小沼拓矢・綱本良啓(東北大・農)・阿部晴恵(新潟大・農)・中村剛(北大・FSC 植物園)・陶山佳久(東北大・農) MIG-seq 分析によるキタダケソウ属3種の種識別と遺伝的集団構造解析
 渡邊定元(Φ森林環境研究所) Chemical Communication in Trees-樹木の共通語: 青葉アルコール
 久米篤(九大・農院) 針葉樹は近赤外放射を何故吸収するのか?

廣田峻(東北大・農)・三木望(九州大・システム生命)・陶山佳久(東北大・農) 日本におけるキスゲ属の遺伝的集団構造
 古本良(西表島在住)・指村奈穂子(山梨県森林総研)・横川昌史(大阪自然史博)・内貴章世(琉球大) 希少樹種クロボウモドキの実生のハビタット選好性と果実の散布制限
 川北篤・望月昂(京大・生態研)・加藤真(京大・人間環境) コミカンソウ属におけるタマバエ媒の多回起源
 山岸洋貴・山尾僚(弘前大)・末次健司(神戸大) ツチアケビの種子は哺乳類にも運ばれる?
 富松裕・金子悠一郎・谷口稜太郎・大矢陽太(山形大)・工藤恵梨(秋田県立大)・松尾歩・陶山佳久(東北大)・蒔田明史(秋田県立大) 一斉枯死後のチシマザサ個体群の長期動態: クローン成長とバイオマス回復への寄与
 後藤なな¹・藤田卓¹・石濱史子²・竹中明夫²・高川晋一¹・朱宮丈晴¹ (¹日本自然保護協会, ²国立環境研究所) 市民調査で明らかになった日本の里山の生物多様性の10年間の変化〜モニタリングサイト1000里地調査の成果と今後に向けて〜
 中田大暁・堂園いくみ(学芸大・院・環境科学) 同所的に生育する近縁植物2種間の生殖隔離と集団間の種子生産比較
 西脇亜也・黒木健吾(宮崎大・農) ススキ属植物の倍数性進化にともなう気孔細胞の形状変化
 嘉美千歳・工藤洋(京大・生態研) 野外におけるシロイヌナズナの同調現象に関する研究/生育終了因子の単離と同定
 川野辺悠馬・酒井聡樹(東北大・理) 花蜜酵母は寄生者か? 一花蜜酵母の存在が植物の種子生産に与える影響—
 指村奈穂子(山梨県森林研)・池田明彦(品川区役所)・大谷雅人・澤田佳宏(兵庫県大)・内貴章世(琉球大)・古本良(西表島民)・横川昌史(大阪自然史博) 希少樹種クロボウモドキの個体群構造と群集構造および生育環境
 古川沙央里・川北篤(京大・生態研) いびつな「果実」をつくる送粉者は宿主カンコノキの種子生産にほぼ貢献していない
 呉馥宇・矢原徹一(九大・シス生) The pollen grain in apomictic *Taraxacum* is a tiny defense mechanism against florivory
 奥山雄大(科博・植物園)・Jostein Kjærandsen(トロムソ大学博物館)・岡本朋子(岐阜大)・加藤真(京大・人環) 日本産チャルメルソウ属を送粉するキノコバエ類の生活史・生物学的実態の解明
 柿嶋聡(科博・植物)・鈴木俊貴(京大・生態研) 一斉開花は盗蜜率を緩和するか? 6年周期植物コダチスズムシソウにおける検証

お知らせ

 **電子版和文誌第2巻の公開が始まりました**——「情報通信技術で革新する生態学: 加速するオープンデータとオープンサイエンス」(責任編集 田辺晶史・大西亘) が順次公開されています。詳しくは学会ウェブサイトをご覧ください。

Wiley Online Library の仕様が変更されました——電子メールではお知らせしていますが、Wiley Online Library の仕様変更にもともない、Plant Species Biology を閲覧するための会員登録手続が変更となりました。これから新たに登録手

続きをなされる方は、学会事務局まで閲覧方法をお問い合わせください。なお、登録手続に必要な会員番号は、事務局からの郵便物(宛名欄)に記載されています。

電子メールアドレス更新のお願い——種生物学会ではさまざまな情報を電子メールで配信しています。メッセージが届かない方は、電子メールアドレスが登録・更新されておきませんので、事務局までご連絡ください。

事務局の連絡先は office@speciesbiology.org です

会計報告

2017年度一般会計 決算 (期間: 2017年1月1日～12月31日)

収入の部	予算額	収入額
会員会費	4,000,000	7,335,544
購読料	60,000	60,000
バックナンバー	50,000	0
著作権料	200,000	152,924
PSBロイヤリティ	500,000	1,001,481
超過ページ代	100,000	45,000
その他 (片岡基金・利息など)	1,000	40,005
小 計	4,911,000	8,634,954
前年度繰越金	1,004,020	1,004,020
合 計	5,915,020	9,638,974

支出の部	予算額	支出額
印刷費 Newsletter	10,000	33,134
出版委託費	4,000,000	3,292,350
PSB 2017年 Vol32.(1-4)	3,000,000	2,436,000 *
和文誌 2017年発行 (39号)	1,000,000	856,350
事務費	500,000	163,128
発送費	200,000	73,369
冊子発送作業費	100,000	0
その他	200,000	89,759
和文誌編集補助	30,000	0
英文誌編集補助	250,000	250,000
シンポジウム補助金	30,000	0
会計監査交通費	10,000	0
学会賞	40,000	0
学会選挙費用	0	0
自然史学会連合分担金	20,000	20,000
日本分類学会連合分担金	10,000	10,000
男女共同参画連絡会分担金	5,000	5,000
予備費	30,000	0
小 計	4,935,000	3,773,612
次期繰越金	980,020	5,865,362
	5,915,020	9,638,974

収入その他 (寄付金40,000、利息5)

*PSB Vol32-4分については2018年1月支払済み

2017年度片岡基金決算報告

(期間: 2017年1月1日～12月31日)

収入の部	収入額
利息	6
前年度繰越金	692,247
合 計	692,253
支出の部	支出額
片岡奨励賞副賞	50,000
PSB論文賞副賞 (楯)	18,637
次年度繰越金	623,616
合 計	692,253

2018年度一般会計 予算 (期間: 2018年1月1日～12月31日)

収入の部	予算額
国内会員会費	3,200,000
購読料	20,000
バックナンバー	10,000
著作権料	200,000
PSBロイヤリティ	500,000
超過ページ代	100,000
その他 (利息など)	20,000
小 計	4,050,000
前年度繰越金	5,332,455
合 計	9,382,455

支出の部	予算額
印刷費 Newsletter	30,000
出版委託費	4,000,000
PSB 2018年 Vol.33 (1-4)	3,000,000
和文誌 2018年 (40・41号)	1,000,000
事務費	180,000
発送費	50,000
冊子発送作業費	80,000
その他	50,000
和文誌編集補助	20,000
英文誌編集補助	250,000
シンポジウム補助金	100,000
会計監査交通費	10,000
学会賞	20,000
学会選挙費用	40,000
自然史学会連合分担金	20,000
日本分類学会連合分担金	10,000
男女共同参画連絡会分担金	5,000
第50回種生物学シンポジウム記念事業費	200,000
予備費	20,000
小 計	4,905,000
次期繰越金	4,477,455
合 計	9,382,455

会員数

(2018年8月24日現在)

個人会員	313
一般会員	251
学生会員	62
機関会員	2

(会計幹事: 堂園いくみ)

種生物学会ニュースレター 第 51 号

発 行 種生物学会
<http://www.speciesbiology.org/>
 編 集 富松 裕 (庶務幹事)
 〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12
 山形大学理学部内 種生物学会事務局
 発行日 2018 年 9 月 10 日